

受付番号

2025-41

許可番号

大歯医倫 第 111420 号

研究課題名

脳可塑性変化に基づく口腔リハビリテーション効果の解析  
－健常若年者を対象としたアプローチ－

研究責任者

島田 明子

申請者

松田 有加子

研究終了日

2026年12月31日

所 属

医療保健学部 口腔保健学科

所 属

歯学研究科（高齢者歯科学専攻）

職 名

教授

職 名

大学院4年生

申請の概要

本研究は、健常若年者を対象に、経頭蓋磁気刺激（Transcranial Magnetic Stimulation: TMS）によって誘発される舌筋運動誘発電位（Motor Evoked Potentials: MEP）の振幅やその他の神経可塑性変化パラメータ、および舌圧などの口腔機能パラメータを、筋機能トレーニングの介入前後で総合的に分析することを目的とする。これにより、顎口腔領域における筋機能トレーニングの効果とその持続性を明らかにすることを目指す。

短期間の筋機能トレーニングにおいて高齢者でも神経可塑性変化パラメータおよび口腔機能パラメータに変化をもたらすことが観察されている。具体的には、舌圧が上昇し、これに伴うニューロンの興奮性の増大が示唆されている。しかし、長期間の筋機能トレーニングが高齢者に与える影響を理解するためには、同時に健常若年者における基礎的なパラメータの変化を詳細に検証することが不可欠である。

したがって、本研究は、健常若年者を対象とした基礎データを調査することで、長期的な筋機能トレーニングの効果の加齢や口腔機能低下の要因を検討、比較する役割を担う。本研究の結果は、口腔機能の改善やリハビリテーションの効果を評価する際の新しい指標を提供し、将来的には高齢者の QOL（生活の質）の向上に寄与することが期待される。